

各 位

会 社 名 ソースネクスト株式会社
代 表 者 代表取締役社長 兼 COO 小嶋 智彰
(コード番号 4344 東証プライム)
問 合 せ 先 取締役兼 CFO 青山 文彦
電 話 番 号 0 3 - 5 7 9 7 - 7 1 6 5

“据え置き型”AI 同時通訳機「ポケットーク X」 2026 年の販売開始に向け、年内に実証実験を実施のお知らせ

当社の連結子会社であるポケットーク株式会社(本社:東京都中央区、取締役 代表執行役社長 兼 CEO: 松田 憲幸。以下、ポケットーク社)は、新たに“据え置き型”の AI 同時通訳機「ポケットーク X(エックス)」を開発し、2026 年の販売開始を目指し、年内に実証実験を開始することを、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 概要

「ポケットーク X」は、ポケットーク社が提供している AI 同時通訳ソフトウェア「Sentio(センチオ)」をベースに、多言語による対面での自然な会話を実現するために開発された、据え置き型の AI 同時通訳機です。

最大の特徴は、「両面ディスプレイ」に互いの言葉を瞬時に翻訳して表示することで、自然な対話ができる体験を可能にします。さらに、高感度なデュアルマイクが双方の声を正確に捉えることで、騒音下でも精度高く多言語の同時通訳を実現します。さらに、会話全体の流れやテーマをリアルタイムで解析し、動的な意味的文脈を構築し、同音異義語も的確に聞き分け、高精度に翻訳します。



2. 背景

「ポケットーク X」が目指すのは、空港や病院、行政窓口、ホテルのフロントといった公共空間をはじめ、グローバルなコミュニケーションを必要とするビジネス会議の現場など、多言語が飛び交うシーンで、言葉の違いによって生じる心理的・時間的な壁を取り除くことです。そして、外国人旅行者や医療従事者、行政担当者、地域住民、ビジネスパーソンなど、誰もが同じスピードで会話できる社会の実現です。

多様な現場で日常的に稼働することを前提に設計されており、多言語コミュニケーションインフラの中核として、公共空間をはじめとするさまざまな言葉の課題を技術で解決し、社会全体のコミュニケーションの平等性とアクセス性を支える基盤となることを目指しています。

2. 製品情報

製品名	「ポケットーク X(エックス)」
製品内容	AI 同時通訳機
販売開始	2026 年を予定
販売価格・プラン (仮)	・月額レンタルまたはサブスクリプションプラン: 10,000 円(税別)/月 ・年額レンタルまたはサブスクリプションプラン:100,000 円(税別)/年 ・買い切りプラン:200,000 円(税別)/年(注:2年間・3年目以降は 70,000 円)
製品概要	<p>・両面ディスプレイによる自然な対話 互いの言葉を瞬時に翻訳して表示することで、対面でのコミュニケーションが途切れることなく成立します。これにより、空港や病院、行政窓口など、言語が異なる利用者同士でもスムーズな会話が可能です。</p> <p>・高感度デュアルマイクによる精度向上 双方の声を正確に捉え、騒音下でも高精度な多言語同時通訳を実現します。会話全体の流れやテーマをリアルタイムで解析し、同音異義語も的確に聞き分けることで、より自然な翻訳を提供します。</p> <p>・自動言語判別機能 発話された言語を自動で認識し、言語設定や操作を必要とせず、対話を止めることなく翻訳を開始します。多言語社会を支えるインフラとして、誰もが即座に会話を始められる利便性を追求しています。</p> <p>・不適切表現フィルター、会話データ即時削除 通訳時に不適切な表現を自動で検知し、通訳前後の発言を非表示にすることで、公共の場でも安心して利用できます。また、会話データは通訳後に即時削除され、AI の学習に利用されることはなく、個人情報や機密情報の保護にも配慮しています。</p> <p>・管理基盤・セキュリティ設計 法人・自治体向け管理コンソール「Ventana」に対応し、導入現場の一元管理や利用状況の可視化、通信 SIM の期限管理や紛失時対応など、運用効率とセキュリティを両立しています。HIPAA(米国医療保険の個人情報保護法)や ISO 27001 など国際的な情報セキュリティ基準にも準拠しており、大規模導入でも安心して運用できる設計です。</p>

4. 今後の見通し

本件による当社グループ業績への影響は、現時点では軽微です。今後、業績に重大な影響を与えることが明らかになった場合は、速やかに開示いたします。

「ポケットーク」は、“言葉の壁をなくす”ことをミッションに掲げ、AI 通訳を個人の利便性を超えた社会インフラへと発展させることを目指しています。「ポケットーク X」はその基幹を担う製品として、行政、医療、交通、観光など、あらゆる対面シーンで、誰もが母語のまま思いを伝え、理解し合える社会の実現に貢献してまいります。

以上